

## 1 はじめに

柏崎市刈羽郡学校教育研究会は、会員の資質向上及び学校教育の充実発展を図るため、柏崎市教育委員会及び刈羽村教育委員会、柏崎市立教育センター、関係機関等と連携し、特色ある事業を推進することを基本方針としている。保健体育研究部の今年度の部員は、小学校43人・中学校31人・特別支援学校10人・柏崎翔洋中等教育学校2人の計86人で構成しており、大人数である。実技研修と授業研究を柱に、学習指導力の向上を目指し、子どもが自発的に運動に親しみ、体力向上につながる学習指導のあり方を研究してきた。

## 2 研究の概要

### (1) 柏崎市立教育センターとの連携による事業

- ①「ニュースポーツ研修」 12月12日
- ②「武道指導技術講習」 11月14日
- ③「性教育」

### (2) 実技研修

- ①「ハードル指導法」8月20日  
講師 県立新潟豊学校 藤巻 奈緒氏

### (3) 研究部内授業研修

- ① 小学校の部
- ② 中学校の部

小学校の部の研修は、郡市内の小学校を4グループに分け、順番に授業研究を行っている。今年度は、第4グループの代表が以下のような授業を行った。



ハードル指導法を学ぶ体育教師

## 3 授業研究（小学校の部）

(1) 単元名 第5学年 陸上競技「持久走」(5/8時間)

(2) 授業者 柏崎市立剣野小学校 教諭 西川 祥雄

(3) ねらい よりよい走り方を意識して、一定のペースで8分間走をすることができる。

### (4) 実践の意図

運動、特に持久走に対して苦手意識や不安を抱えている児童に対し、「持久走」を教材として実践を行った。仲間の姿に学びながら、自分に合った走り方やペースを見つける。そして、自身や仲間のめあての達成や自身の記録の伸びを意識し、それを確かめることを目標とした。それにより、持久走の楽しさや達成感を味わうことができると考えた。

### (5) 授業の概要

折り返しペース走、1分間走、4分間走と、ペース走を繰り返し行ってきたことで、自分に合ったペースや走り方のイメージを膨らませ活かそうとしていた。さらに、仲間の動きや発言を共有する場を設定することで、仲間に学ぶ姿が見られた。

ペースや走り方の指導が重点的に行われたことで、次時から行う試走、最終目標である持久走記録会に向けて、具体的な目標を立てることができていた。自信をもって本番をむかえることができそうだ。

### (6) 授業を終えて

- ① ペアを組んで取り組んだことで、仲間の走り方や記録に注目し、仲間の姿に学ぶという姿勢が見られた。
- ② 走り方のポイントを明確にしたため、それを基に子どもたちが自分に合う走り方を選択したり、ポイントを意識して自分の伸びを感じたりできた。
- ③ 他との競争ではなく、自分の中での伸びを感じたり走るコツが分かったりすることで、苦しさではなく、持久走の楽しさや達成感を感じていた。



ペアでタイムを教え合いながらの持久走

## 4 おわりに

学習指導要領の目標に述べられている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」には、まず、自分の体力に関心を持ち、自分の身体のことを知ることから始める必要がある。そして、仲間とかかわり合いながら、いろいろな運動に取り組み、楽しさや喜び、達成感を味わわせていかなければならない。柏刈学校研保健体育部では、今後も教師の指導力向上を図り、発達段階に応じた指導を充実させていきたいと考える。